自然の中でのびのび学習

私の学校

―矢立中学校―

◀国有林での教育キャンプ

秋田県の最北端に位置し、青森県との県境矢立峠のそばにあるのが、私たちの学んでいる矢立中学校です。

全校生徒は１２７人で、規模の小さい学校ですが、先輩後輩のよそよそしいところは少なく、学年を乗り越えた団結の強さではピカ一です。

私たちの学校の自慢できる活動や行事としては、まず「秋田県の北の入口をきれいにしよう」というスローガンのもとで行っているクリーンアップがあります。拾ったごみは、毎年トラック１台半にもなり、空きカンなどを拾っていると、いつも「これでいいのだろうか」と考えさせられます。

行事では、これも学校の伝統行事となっている「２年生の教育キャンプ」があります。これは、毎年７月の中ごろに１泊２日の日程で、国有林の中にテントを張って行います。ここでは、白沢営林事務所の所長さんから、木の手入れのしかたや、山の役目を聞く時間があります。また、学校の中での生活と違うので、友だちの思いがけないやさしさを知ったり、楽しみながら協力しあったりという自主的な活動を体験することができるので、２年生になると心待ちにしている行事です。

また、森林愛護委員会が生徒会の中にあり、樹木の名前をみんなに知ってもらうようにしたり、小鳥の巣箱作り、植樹祭、全校登山などを計画してやっています。

全校登山は、毎年１０月に、登山道のある山としては大館市で一番高い山で、学校区にある縫戸山（ぬいとやま）に生徒も先生も全員で登ります。なかなか険しい山で、片道約２時間も歩くので、女子の中にはへばる人もいますが、頂上に着いたときのすがすがしい気分は最高です。木全体が燃えるように赤くなっているもみじなど、山全体が紅葉しているのを見ると、「こんな山が学校の近くにあってよかったなあ」と思います。

小鳥の巣箱作りコンクールでは、毎年特別賞をもらっていますし、昨年の緑の少年団交流大会でも、植樹祭などの活動が認められて奨励賞をもらいました。

これらのほかにも紹介したいことはたくさんありますが、いっぱいある自然の中で勉強できることに誇りをもって、学校の伝統をこれからも大切にしていきたいと思っています。

伊藤優子（３年）

広報 歳時記

てるてる坊主

〝てるてる坊主てる坊主、あした天気にしておくれ……〟

シトシトと雨の降る空を見るにつけ、つい口ずさみたくなるのがこの歌です。

晴天を祈り、紙で作ったてるてる坊主を軒下やナンテンの木につるし、願がかなえられると目を描いてやったり、酒をかけて川に流すのが一般的な風習。もとは中国から渡ってきたようです。日本では「俳諧新選」（一七七三年）に〝てるてる法師〟という言葉がみられるので、それ以前からこの風習があったものと思われます。

てるてる坊主で思い出すのが天気予報――最近は気象衛星を使って地球的な規模で気象観測が行われ、雨の降る確率もパーセンテージで発表されるなど、天気予報もずいぶん科学的になりました。それでも、梅雨時や遠足シーズンには子供が作ったらしい、てるてる坊主を見かけることがあります。

ところで、お天気といえば、六月一日は気象記念日。今年は何と百八回目。明治八年六月一日の旧内務省地理寮構内で気象業務が開始されました。

海水浴や登山、釣りなどのレジャーシーズンは目前です。気象の変化を甘くみて、遭難しないよう気象への関心と正しい知識を持ちたいものです。

〈六月の主な行事〉

1日（水）・金婚式（市民体育館）
4日（土）・歯の衛生週間（～10日）
5日（日）・環境週間（～11日）

〈広報係からお願い〉

広報は、四月十六日号から紙面を改正しました。新広報をご覧になっていかがでしょうか。ご意見ご感想を係までお寄せください。また、市民の皆さんからの投稿もお待ちしています。

・**「市民の声」**――テーマは自由。市政や社会事象、身の回りの出来事などのご意見、ご感想を二百字以内にまとめてください。住所、氏名（匿名希望の場合はその旨をお書きください）、職業、電話番号を明記のこと。

・**「思い出のアルバム」**――昔懐かしい行事や風景、珍しい風俗などの写真をお持ちの方はご連絡ください。

・**「私と読書（心に残る一冊の本）」**――本を読んだ感想文を六百字以内で書いてください。

◇宛先　大館市字中城20番地
大館市役所総務課秘書広報係
☎49―3111内線259

〈市民文化会館自主事業である**「青少年劇場スターダンサーバレエ」**の入場者募集は都合により**広報6月16日号で**お知らせします。〉